BASF
We create chemistry

キャベツ、レタス、ブロッコリーの灰色かび病・菌核病防除に

作物を守りぬくための
3つの約束

1. 胞子発芽をシャットアウト
2. 長くしっかりガード
3. 耐性菌にも打ち勝つ

殺菌剤

カンタス®ドライフロアブル

®=BASF社の登録商標

カンタス® ドライフロアブル

■登録番号:第21468号　■有効成分:ボスカリド……50.0%　（葉菜版）
■毒性:普通物(毒劇物に該当しないものを指していう通称)　殺菌剤分類 7

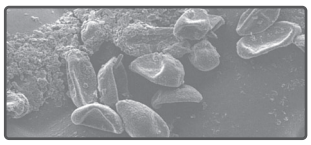
❶ 胞子発芽をシャットアウト

本剤は低濃度で胞子の発芽を抑制し、病原菌の伝染を初期の生育ステージで効率的に阻害します。そのため、本剤は病斑が生じる前(感染前)の**早めの散布が効果的です。**

胞子発芽阻害作用　EC_{50}:0.07ppm(0.03〜0.17ppm)
EC_{98}:1.1ppm(0.22〜1.94ppm)

(BASFドイツ研究所)

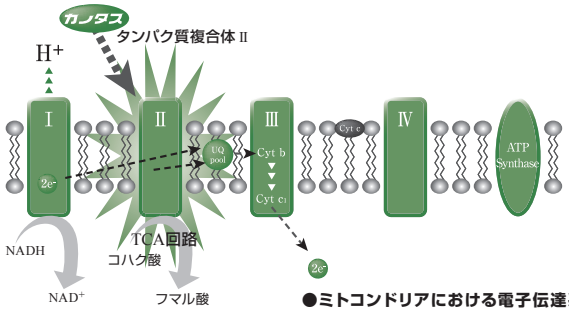
●無処理:葉面上の*Botrytis cinerea*の分生胞子



●カンタス250ppm処理:葉面上の*Botrytis cinerea*の分生胞子は潰れている

❷ 耐性菌にも打ち勝つ

新規化合物ボスカリドは従来の灰色かび病、菌核病防除剤とは異なり、病原菌内のミトコンドリア、タンパク質複合体IIに作用しエネルギー代謝を阻害します。このユニークな作用機作は**他剤耐性菌にも優れた効果を発揮します。**

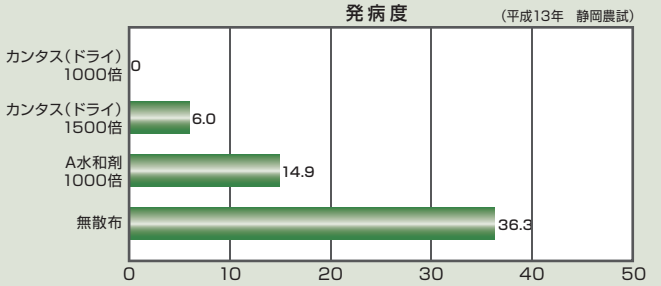


●ミトコンドリアにおける電子伝達系阻害

❸ 長くしっかりガード

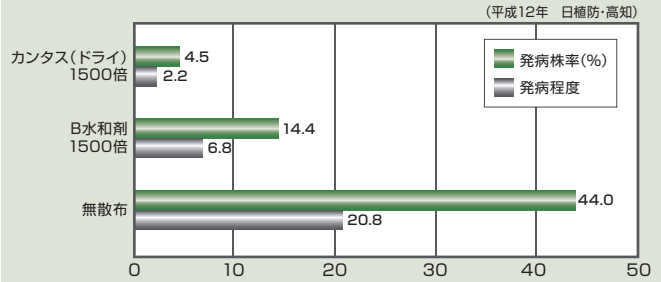
本剤は浸達性により有効成分が速やかに植物体内へ移行し、長期残効性を有します。
また低濃度で胞子発芽を抑制し続けますので、**余裕をもった間隔でローテーション散布できます。**

●レタス菌核病への効果



品　種:菊川102　定植日:11月13日　発生量:多発生(接種)
散布日:平成13年11月13日(定植日)、20日、12月11日(結球初期)
調査日:平成14年1月4日

●キャベツ菌核病への効果



品　種:秋蒔極早生2号　定植日:10月14日　発生量:中発生
散布日:平成12年11月27日(結球初期)、12月4日、18日、28日
調査日:平成13年1月9日

■適用作物・適用病害と使用方法

作物名	適用病害名	希釈倍数	使用液量	使用時期	本剤の使用回数	使用方法	ボスカリドを含む農薬の総使用回数
レタス	灰色かび病 菌核病	1000〜1500倍	100〜300ℓ/10a	収穫7日前まで	2回以内	散　布	2回以内
非結球レタス				収穫14日前まで			
キャベツ	菌核病 株腐病 黒斑病	1500倍		収穫7日前まで			
ブロッコリー	菌核病						

●この他に、かんきつ、大粒種ぶどう、小麦、いちご、トマト、ミニトマト、なす、きゅうり、メロン、すいか、にんじん、くきたちしゃ、エンダイブ、トレビス、なばな、たまねぎ、豆類(種実、但し、らっかせい、あずき、いんげんまめを除く)、あずき、いんげんまめ、さやいんげん、未成熟そらまめ、さやえんどう、実えんどう、らっきょう、ピーマン、とうがらし類、食用ぎく、プンタレッラに登録があります。

⚠ 効果・薬害等の注意

○散布液調製の際は、水をかきまぜながら本剤の所定量を徐々に加えてください。
○薬剤耐性菌の出現を防ぐため、本剤の過度の連用はさけ、なるべく作用性の異なる薬剤との輪番で使用してください。
○きゅうりに使用する場合、高温条件や散布後急激に乾燥すると葉焼けや日焼け果の発生を助長するおそれがあるので注意してください。
○果菜類、ぶどうに使用する場合、浸透性を高める効果のある展着剤や葉面液肥を加用すると薬害が生じるおそれがあるのでさけてください。
○本剤の使用に当たっては、使用量、使用時期、使用方法を誤らないように注意し、特に初めて使用する場合は病害虫防除所等関係機関の指導を受けてください。
○適用作物群に属する作物またはその新品種に本剤をはじめて使用する場合は、使用者の責任において事前に薬害の有無を十分確認してから使用してください。なお、病害虫防除所等関係機関の指導を受けてください。

⚠ 安全使用上の注意

○本剤は眼に対して刺激性があるので眼に入らないよう注意してください。
眼に入った場合には直ちに水洗し、眼科医の手当を受けてください。
○散布の際は農薬用マスク、手袋、長ズボン・長袖の作業衣などを着用してください。作業後は手足、顔などを石けんでよく洗い、うがいをするとともに洗眼してください。
○かぶれやすい体質の人は取扱いに十分注意してください。

⚠ 貯蔵上の注意

○直射日光をさけ、食品と区別して、なるべく低温で乾燥した場所に密封して保管してください。

このチラシの記載内容は2020年8月現在のものです。

●使用前にはラベルをよく読んでください。 ●ラベルの記載以外には使用しないでください。 ●小児の手の届く所には置かないでください。
●使用後の空容器は圃場などに放置せず、環境に影響のないよう適切に処理してください。 ●防除日誌を記帳しましょう。

BASFジャパン株式会社
〒103-0022 東京都中央区日本橋室町3丁目4番4号 OVOL日本橋ビル3階
0120-014-660　https://crop-protection.basf.co.jp/

詳細はWEBでもご覧いただけます。

BASF00763 2
202008